

【テーマ4】 団体名 埼玉大学教育学部

「教育委員会と大学協働による『職業としての教師の魅力』発信～埼玉県における取組から～」

調査の概要

◆課題認識

- ・大学における教職志望率が低下している。
- ・教員採用試験志望倍率が低下傾向にある。

◆調査研究の目的

- ・埼玉大学教育学部と埼玉県・さいたま市教育委員会が協働で、これまでに取り組んできた教員養成・教員研修等の実績を基盤として、「職業としての教師の魅力」、教員採用への道筋等を発信する手立てを構築し、社会に発信する。

◆調査研究の方法

- ・県市教育委員会との連携で教師の魅力発信の取組を行う。

- ・入学前の取組（高校生オンライン連続講座・高校生のための教員志望者説明会への参加）
- ・入学後の取組（教職支援に係る学生への指導・説明会の開催、授業での教員の魅力発信、教育実習振り返り）
- ・4年生対象教育実践演習における「教職に関する意識調査」

◆調査研究校

- ・埼玉県さいたま市
- ・国立大学法人埼玉大学教育学部

◆現状

- ・1学年380名
- ・令和4年度9月末時点教員就職率 46.7%
(進学者・保育士を除く 52.6%)

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・入学前の取組より、教職志望の高い高校生を迎える。
(高校生オンライン連続講座
高校生のための教員志望者説明会への埼玉大学教育学部生の参加)

②ポイントB

- ・学校体験・参観活動により教師の魅力を伝える
(教職入門Ⅰ、学校フィールドスタディなどを通じた教師の魅力の体験)

③ポイントC

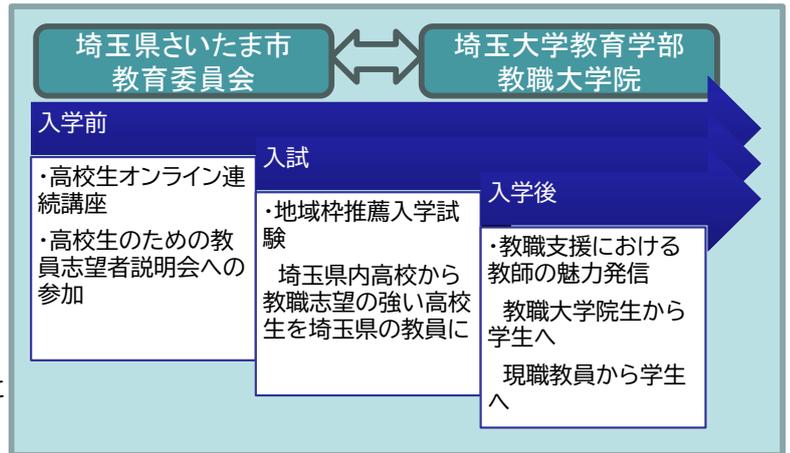
- ・埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会をはじめとした各自治体との連携による教職支援を通じた、教師の魅力発信
(教職支援各種説明会等での先輩教師から学生への発信)

④ポイントD

- ・教職支援への教職大学院生の参加
(教職大学院生を都道府県別指導等におけるファシリテーターとして起用。
現職大学院生から学部生へ教師の魅力発信)

◆成果

- ・各取り組みによる振り返りアンケートから、これまで教師という仕事に対して自信を失いがちだった学生に対して、幅広い年代の現職教員の姿をロールモデルとして示すことで教職への後押しができたと考える。
- ・「教職に関する意識調査」(埼玉大学教育学部教職実践演習での調査)において、決定した進路を教員(幼稚園・保育士を含む)と回答した学生、および不合格となってしまったものの、教師になることを志して教員採用試験を受験した学生の全体に占める割合が53%(令和3年度)から55%(令和4年度)へ増加



今後の課題

◆教職大学院連携大学への教職支援の拡大

- ・教職大学院連携大学への埼玉大学教職大学院生の派遣など、埼玉県域への教師としての魅力発信を拡大する。

◆取組成果の確認と、教職支援の維持・拡大

- ・今後、埼玉大学教育学部学生の教職志望率、教員就職率の動向をみて、本取組の成果確認を行いながら、支援を継続する。
- ・さらに必要と考えられる教職支援の拡大を行う。